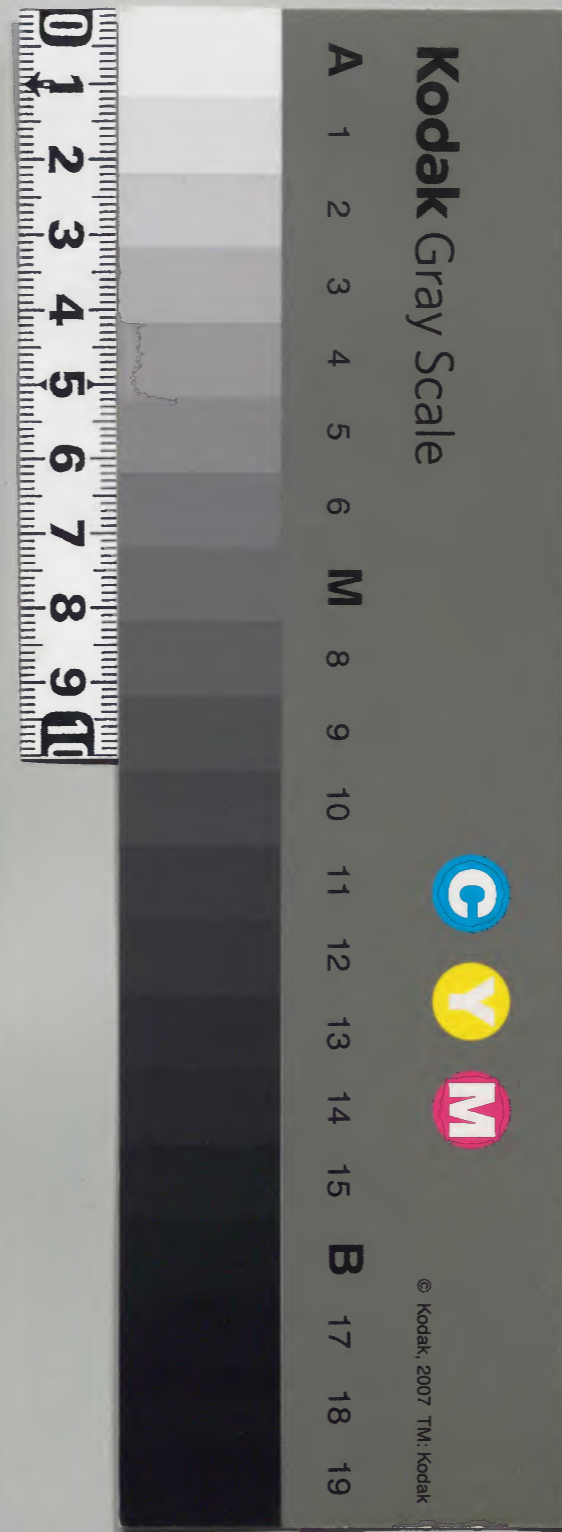


枕草子家伝抄 二

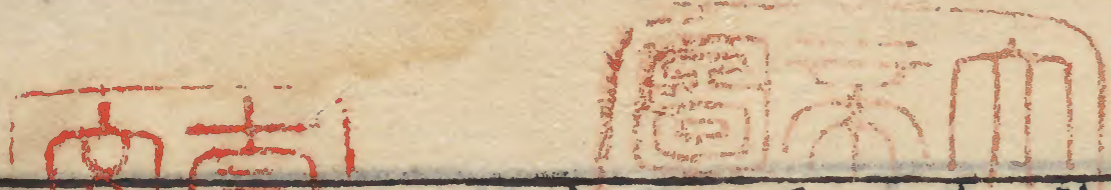
|   |   |   |     |
|---|---|---|-----|
|   |   | 八 | 和   |
|   |   | 五 | 書   |
|   |   | 九 | 門   |
| 一 | 三 | 四 |     |
| 三 | 三 | 九 |     |
| 冊 | 架 | 函 | 號 類 |

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 庫 | 文 | 閣 | 内 |
| 三 |   | 八 | 和 |
| 三 |   | 五 | 書 |
| 函 |   | 九 |   |
| 七 | 三 | 四 |   |
| 架 | 冊 | 號 | 類 |

|      |          |
|------|----------|
| 内閣文庫 |          |
| 番號   | 和 8549   |
| 冊數   | 13 ( 3 ) |
| 函號   | 203 95   |



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



すゝめいあぢはる

ひるあぢはる 大いあぢはる

春のけしき 細代あぢはる

三四月乃お梅のきこわ

表紅うい家のきこわ

乃お梅のきこわ

大いあぢはる

博士あぢはる

博士あぢはる

大学寮博士入掌教授  
経業課試学生

すゝめいあぢはる

ひるあぢはる 大いあぢはる 三四月の

お梅のきこわ ちこのあぢはる

大いあぢはる 博士あぢはる

乃お梅のきこわ

大いあぢはる

博士あぢはる

博士あぢはる

博士あぢはる

博士あぢはる









急ぎ急ぎの事だ  
そりくわいひあま  
るま

急ぎ急ぎの事だ  
そりくわいひあま  
るま

家の北より南面を  
晴のふりしあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま

家の北より南面を  
晴のふりしあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま

あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま

あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま

れいあまあま  
常り居るあま  
珍者乃あま

れいあまあま  
常り居るあま  
珍者乃あま

からきり辛り  
やうくあま  
ころとあま

からきり辛り  
やうくあま  
ころとあま

困也目比ゆりけ調  
伏志者外あま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま

困也目比ゆりけ調  
伏志者外あま  
あまはけりあま  
あまはけりあま  
あまはけりあま

毎何事事也  
学同協美もあま

毎何事事也  
学同協美もあま







凡そ初めはあつて  
おぼろしく

我がのりまゝに  
ひ車をとりて我がのり  
まゝに

さうしては 文柱也  
人をもつておぼろしく  
我がまゝにあつて  
おぼろしく  
おぼろしく

らうとありて 勢也  
つらうに

調度よきもの  
つらうに  
つらうに  
つらうに

つらうに  
つらうに  
つらうに  
つらうに  
つらうに  
つらうに  
つらうに  
つらうに  
つらうに  
つらうに

おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく

おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく

おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく

おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく

おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく

おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく  
おぼろしく

目におき 二宮くは  
 乃くは  
 一 二宮くは  
 二 二宮くは  
 三 二宮くは  
 四 二宮くは  
 五 二宮くは  
 六 二宮くは  
 七 二宮くは  
 八 二宮くは  
 九 二宮くは  
 十 二宮くは

くん 二宮くは  
 一 二宮くは  
 二 二宮くは  
 三 二宮くは  
 四 二宮くは  
 五 二宮くは  
 六 二宮くは  
 七 二宮くは  
 八 二宮くは  
 九 二宮くは  
 十 二宮くは

あや 二宮くは  
 乳母のま 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは

二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは  
 二宮くは



ふじいふふめい人 無礼

軽口人かきうらうとけい

乃須乃すれやとよ

世をよめめふとらう

斜ナタうらうらあぶら

あふあふや

はらうあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

そらふとらうあふあふあふ

久しとらふあふあふあふ

をふのめらうあふあふあふ

こらうらうあふあふあふ

わらうらうあふあふあふ

へらうらうあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふ



あふわさすはあわれと  
かひなきはゆきや  
名前のちの園中乃  
まをさしはし  
やうりあはしに出ゆ  
ほは総角小字路の中  
尾小宮のきねぐみ  
明ゆかひのうらた  
戸をわけしとらと  
まふのこひあそび  
まふとあはしあはし  
ののりあはしあはし  
まふとあはしあはし  
ひるまはしあはし  
あはしあはしあはし  
あはしあはしあはし  
あはしあはしあはし

あふわさすはあわれと  
かひなきはゆきや  
名前のちの園中乃  
まをさしはし  
やうりあはしに出ゆ  
ほは総角小字路の中  
尾小宮のきねぐみ  
明ゆかひのうらた  
戸をわけしとらと  
まふのこひあそび  
まふとあはしあはし  
ののりあはしあはし  
まふとあはしあはし  
ひるまはしあはし  
あはしあはしあはし  
あはしあはしあはし

あふわさすはあわれと  
かひなきはゆきや  
名前のちの園中乃  
まをさしはし  
やうりあはしに出ゆ  
ほは総角小字路の中  
尾小宮のきねぐみ  
明ゆかひのうらた  
戸をわけしとらと  
まふのこひあそび  
まふとあはしあはし  
ののりあはしあはし  
まふとあはしあはし  
ひるまはしあはし  
あはしあはしあはし  
あはしあはしあはし

あふわさすはあわれと  
かひなきはゆきや  
名前のちの園中乃  
まをさしはし  
やうりあはしに出ゆ  
ほは総角小字路の中  
尾小宮のきねぐみ  
明ゆかひのうらた  
戸をわけしとらと  
まふのこひあそび  
まふとあはしあはし  
ののりあはしあはし  
まふとあはしあはし  
ひるまはしあはし  
あはしあはしあはし  
あはしあはしあはし

あふわさすはあわれと  
かひなきはゆきや  
名前のちの園中乃  
まをさしはし  
やうりあはしに出ゆ  
ほは総角小字路の中  
尾小宮のきねぐみ  
明ゆかひのうらた  
戸をわけしとらと  
まふのこひあそび  
まふとあはしあはし  
ののりあはしあはし  
まふとあはしあはし  
ひるまはしあはし  
あはしあはしあはし  
あはしあはしあはし

わが心ももてしほ  
 けりていそひたるを  
 とも被るもさるる  
 とはいにせしむる  
 こゝろもさるる  
 又もさるる  
 ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 唐鏡也  
 今が明かされし  
 色もさるる  
 ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる

ていそひたるを  
 こゝろもさるる  
 ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 唐鏡也  
 今が明かされし  
 色もさるる  
 ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる

かれはゆき 賀茂乃  
 ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる

すきかき  
 かれはゆき  
 ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる

こゝろか  
 ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる

ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる

ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる

ちとあはれなる  
 思をさるる  
 さるる  
 西月のみ  
 さるる





唐廂カラ拱柳キョウリウ毛車モウシャの  
ハミ系拱柳キョウリウを以てし  
尼眉半部細代ニシロハシロ等ハ  
皆わだろをすなり

あけけ 芦毛 白きめ

かしのうもいしころり  
鬣カサカサよりご尾ゴビより白  
ゆりやも 思駒と云  
躬恒ミヤノ焦ヒホよるれ毛を後  
の舟のゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと

かきつねゆきくとしきくゆけい  
わうーいひい伊とらいつく志  
ろこいごがえりりきこあー乃志尾  
乃すうちろき 百いじろはさりやう  
らづきいあげいりりりき  
あやろわりあぶふ志ろきこ  
うとこういりけゆかこちろ  
いとちろきかふしよるりのは  
牛飼ウシウヂのいん  
ういそあさゆきかこあう  
ゆきがかりゆきく  
あぶ志きすいぢんハわうやう  
あぶ志かめあをりりきりり

小の身コノミをいりりりりり  
お柳オヤナギの毛モウを  
る小の身コノミを  
ことわり  
阿海抄アカイ云小令入コノミ  
乃極名也ノキョクナ花もさ  
将乃シヤウノ召シヨウを  
小令入コノミと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと

あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと  
あせのゆふゆふと









こぬりし乃

藤原實方小一条大  
臣師尹公乃孫侍從貞  
時乃男母大内大臣雅信  
公乃女

あふあきし 未考

是も小一条乃家中

三位中将中國白殿中

中、國白道隆公也大内

兼盛公の男母孫侍

藤原仲政女、國獻院の

永觀二年正月七日

從三位 中将中院の

永祿二年五月八日

國白中殿

中ゆとる藤公の出立

あつろしうてめでた

細沫中骨也、藤原の

あき也

うらら乃中細

藤原義懐中ハ一條中後

伊尹公乃男母代明親

王の女惠子女王也、花園院

乃寛和二年小権中

納言從二位 公中補任

上中兼那の氏名中かく

義懐中つの名をあるを

花とあきやう中は

わしはさきすくはるがーいよし

うらひあつひさもいおしとねし乃

志来乃作中あきし乃侍中家

乃さきし中すくはるがーいよし

わしあきし中きんごらあしとあし

たもしすくはるがーいよし

中將と中國白殿中をさきし中がうの

うしもの中あわれあし中があ

わしあきし中すくはるがーいよし

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

あきし中あし中あし中あし中あし中

ぬよけ人乃惟子をえ  
こめし直衣はりりき  
せりやうあし車さくえ  
やうあひしをゆきき  
えんとて去物いのか  
又あ人あうりらんを  
ひまあちをれい

独流乃車さくゆきき  
さらあひしはははまき  
ある車他あうりらん  
ひまあちをれい

人乃せうこうしきく  
人乃ひやうゆきき  
いひはしきき若あ人  
やうあひしをゆきき  
きくは車よあつひま  
んをれい

何者やん実方乃撰ひ  
きりてひまあちをれい  
手さくあうりらんを  
ひまあちをれい

彼流魁の修え人乃  
うあひしを用きき  
えんをれい

えんをれい  
えんをれい  
えんをれい  
えんをれい

けううり人 頭證人  
こまのあまのあま  
えんをれい

乃独流をせは然車を  
又やうしと奴身の  
えんをれい

えんをれい  
えんをれい  
えんをれい  
えんをれい

よづれはあまし申乃うしひをきき  
まきうりしあまをひまのききき  
うあひしはひりし車乃しをえんをせ  
はははまききしをせまふあちをれい  
人あうりらんをひまをききき車乃ひま  
とあうりなれを池うしひまをせまふ  
しをえんをきききあまをれい  
人乃せうこうしきくきりりつがえん  
まのひりりきききききききききき  
えんをれい

はははまききしをせまふあちをれい  
人あうりらんをひまをききき車乃ひま  
とあうりなれを池うしひまをせまふ  
しをえんをきききあまをれい

人乃せうこうしきくきりりつがえん  
まのひりりきききききききききき  
えんをれい

えんをれい  
えんをれい  
えんをれい  
えんをれい

ひきく車乃しをきききあまをれい  
わきひまあちをれい  
えんをれい

えんをれい  
えんをれい  
えんをれい  
えんをれい

けううり人とやうしとあまをれい  
えんをれい

えんをれい  
えんをれい  
えんをれい  
えんをれい

えんをれい  
えんをれい  
えんをれい  
えんをれい



アスくはせきいしひき  
乃石をうらむいひひき  
中へいひひき

ちうしうしうしうしう  
彼使乃きいひひき  
をいひひき

うにににににににに  
義徳乃乃乃乃乃乃  
使の使の使の使の使の

あまり有はるしうしう  
あまり有はるしうしう  
あまり有はるしうしう

藤大納言 御物公あえ七  
月廿日右大将 四十五  
按三為定云八九条右大臣

而輔公の九男貞元二年  
四月廿四日推大納言正  
暦二年九月太政大臣早  
恒徳公

すあまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう

あまのうらむしう  
あまのうらむしう  
あまのうらむしう



退出志あるんが心  
あり彼方便の法を  
をとり又人の心  
ゆめをうんといふ  
誓持たしめぬといは  
よき人んといふ  
乃ちわらわらうと  
信をのまひ首尾  
あつし

二年六月廿餘日小松山  
院出家せさせまひし  
信小義懐つと信師小  
成のいし事袋紙  
花山院時中納言義懐  
公麻惟成身近習の

長やう各天下乃権を執  
志す出家志すあ人困  
き又義懐小語る新祥  
世凡流すまらるる若  
種志て同く出家して人  
乃教訓およりて志され

七月廿九日 七月のち  
乃或思思ちり乃  
手ば思

いとはやうまうと  
板敷乃ほきを思  
かひりひたきやう思  
あわ思  
ル思 其の飛りし思  
色思 といふ思 ぬ思  
く思 といふ思 ぬ思  
き思 といふ思 ぬ思  
を思 といふ思 ぬ思  
こ思 といふ思 ぬ思  
か思 といふ思 ぬ思  
あ思 といふ思 ぬ思  
よ思 といふ思 ぬ思  
う思 といふ思 ぬ思

乃わらうといふある人あ  
といふあるを思 といふある  
うんといふあるを思 といふある

二十日あまりに中納言乃わらう  
あひあうらうあこれありし  
乃ちうわらうあをよの思  
をすうたれとふいづとあ

あつしとあつしとあつしと  
院ひうらう内裏をわ  
志す出家志すあ人困  
き又義懐小語る新祥  
世凡流すまらるる若  
種志て同く出家して人  
乃教訓およりて志され

七月廿九日 七月のち  
乃或思思ちり乃  
手ば思

ねおきとあつしとあつしと  
又たう思 といふある  
いし思 といふある  
や思 といふある  
う思 といふある  
う思 といふある  
に思 といふある  
あ思 といふある  
う思 といふある







